

添付資料- 2

2015年度CeFILインターンシップ 企業アンケート <指導概要>

2015.10.26 CeFIL

※個人や企業が特定される部分、業務内容に関わる部分についてはCeFILで一部修正しています。

指導概要	
1	まずは業務を振り分け、各作業の完了ごとにレビューの機会を設けました。 また、疑問点は逐次質問していただき一緒に解決していきました。
2	スマートデバイスで動作する業務アプリケーションの開発を通じて、モバイル向けの開発技術を身につけてもらった。職場に馴染めるように年代の近い社員を指導員に割当てて工夫を行いました。 技術への理解度は高いためアドバイスとして特筆するものはありませんが、自分の考えを伝えるためのスキルを高める必要性を感じ、思考整理の手段の一つとして読書を推奨しました。
3	企画部門では業務概要、ITガバナンス、またOJTにて各プロジェクト概要、先進ITイノベーションやセキュリティへの試みについて説明及びディスカッションを実施。併せて、報告書の作成方法やプレゼンの仕方、報告期限の順守について指導。 開発担当部門では、20名程度の学生とともに、システム提案力研修や仮想プロジェクトの要件定義、開発計画策定、提案書作成等を実施。
4	1.仕様説明、2.基本設計のレビュー、3.朝会の実施(進捗状況の確認と優先順位付け)、4.定例会の実施(1回/週)、5.共同でテスト設計、6.報告会プレゼン資料のレビュー
5	今回は本人の希望していたOpenStackをベースとしたクラウド基盤の検証業務を遂行してもらった。業務遂行にあたり指導員のアサインを実施し、他部門との定例会への参加や説明会への同行を実施させ、背景知識の習得をおこない、円滑に検証作業を実施できるようにした。
6	車両の運行管理を行うシステム更改の既存ソースから機能設計書の作成 (バッチの1機能を担当し、事前に社員が調べた既存ソースと設計書のフォーマットを提示し作成していただきました)
7	某製品を基盤としたWEBサイトのリニューアルプロジェクトに参画し、詳細設計～単体試験までの工程を一通り経験した。作業スケジュールを守ることの重要性和、その目標を達成するためにはどのように行動すれば良いかを自分で考えながら業務に取り組むことを学んでいただきました。
8	①某製品1のデモ作成(製品の使い方を勉強した上で、拡販のためのデモを作成) ②某製品2の教育資料のチェック、修正(顧客向けの製品教育を資料に沿って実施(受講側)し、問題点を修正) ③中学生向け職場体験案出し(製品のデモページより、職場体験に使えるようなデモの抽出)
9	メンターとしては、インターン生と年齢が近いメンバーをアサインし、コミュニケーションし易さを考慮した。 また、出来るだけ本業務に近い実機を触らせることで、実感を持ってもらう様に指導を実施した。 部内での成果発表会の開催を幹部交えて実施し、インターン内容や発表に対するアドバイスも実施した。
10	指導員をアサインし、日々進捗状況を確認しながら進めました。 今回はイメージデモの開発だったため、現実的には実現しにくい機能についても自由に発想しアイデアを出してもらおうよう促しながら進めました。
11	1対1でアドバイザを設置することに加え、毎日日誌に記入させ、アドバイザから記入内容への回答(アドバイス)することでフォローを実施した。また、情報技術関連の講義・保険業務に関する講習の受講、上流工程体験ワークショップへの参加など、実際の企業でのシステム開発に必要なエッセンスを学習・体験できるカリキュラム構成とした。
12	医療IT業界全般に関する知識の習得、開発資産管理Webサイトの構築作業を課題として与えました。それぞれ、業務知識が詳しい人から作業の進め方を説明してから作業を進めて頂きました。 また、会社組織の活動に触れて頂くという意味で、部の会議や他社と連携したシステムテストなどにも参加して頂きました。
13	・業務内容に関する現場担当者の説明会、開発現場の見学会&説明会の実施 ・終了後の成果報告におけるアドバイス(報告の仕方や観点の整理、今後の改善箇所)
14	プロジェクトマネジメントとしてWBSを用いた工程管理の実践。 小規模であるがインフラ開発の企画～導入・稼働までの実業務を実践。 統括部での成果発表会を企画し、本人からの成果発表と社員からのアドバイスの機会を提供。

15	指導員は、1名専任でアサインした 一方的に指示するのではなく、一緒に考えていく形で業務を進めた
16	商用向けプロト開発のプログラム作成を通して、開発のいろは(開発規約、作業標準、品質設計)の重要性を指導した。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・導入教育:社内ルールの説明とインターンシップテーマとソフトウェア環境の説明を実施。 ・中間報告会:進捗確認と技術的アドバイス。車載系ならではの評価・検証観点の追加など。 ・成果報告会:実車になった場合の挙動をイメージした制御方法の解説など。 ※特に車載系では人の命に直結するため、品質最優先を意識してもらうようにアドバイスした。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に考えてもらったアイデアの中からIoTに関するサービスを選出して、そのシステムを作る ・社内展示会向けのデモシステムのアプリケーション等の開発 ・チーム開発の進め方、報告方法の指導、開発中のアドバイス、サポートを実施した
19	研究開発作業であるため、試行錯誤の繰り返しとなったが、定期レビュー・報告を通して、企業の中での報連相を体験させた。
20	要求獲得からソフト設計、テスト実施までの一連の工程を実習していただきました。指導員は入社6年目で、先行開発経験があり、現在ソフト開発を担当している人材をアサインしました。実際のソフト開発現場での課題感を実習を通じて感じ取ってくれたと思いますので、是非、今後の研究活動に活かしていただきたいと思います。
21	中堅社員レベルの教育資料の一部を抜粋し、組織として成果を出すために何が問題なのか考えるようにアドバイスしました。また、あるべき姿と現状のギャップを意識するために何に注意すればいいか指導しました。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット情報を使った他社クラウドサービスの内容比較調査について、エクセルを使った読みやすい資料の作成方法を指導しました。 ・プロトタイプ開発については、他人が読みやすく保守性の高いソースコードの書き方について指導しました。
23	適宜必要なタイミングで進捗と問題点の有無を確認しました。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に考えてもらったアイデアの中からIoTに関するサービスを選出して、そのシステムを作る ・社内展示会向けのデモシステムのアプリケーション等の開発 ・チーム開発の進め方、報告方法の指導、開発中のアドバイス、サポートを実施した
25	今回開発工程の改善対応の業務について頂いた。プロジェクト起案からリリース作業の一連の工程の見直しを実施しており、その作業の一部をお任せした。日本人以外のメンバーも多数いることから、英語でのコミュニケーションが必要となるが臆することなくチャレンジしている姿勢が見て取れた。
26	若年層(入社8年目)のプロジェクトリーダーやプロジェクトマネージャを指導員とした。プロジェクトでの朝会や夕会による日々の業務計画や実績、業務フェーズ毎の開始前後でのテクニカルレビューなどにより、技術面及び、業務の進め方の具体的な指導を行った。インターンシップ完了時には担当業務の品質評価を実施させた。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・各工程(設計、構築、テスト)において、チームメンバーとペアで作業を実施。作業の目的を中心に伝え、作業自体はインターン生自ら考えるようにした。 ・アウトプットに関するアドバイスはその都度実施した。
28	1対1でアドバイザを設置することに加え、毎日日誌に記入させ、アドバイザから記入内容への回答(アドバイス)することでフォローを実施した。また、情報技術関連の講義・保険業務に関する講習の受講、上流工程体験ワークショップへの参加など、実際の企業でのシステム開発に必要なエッセンスを学習・体験できるカリキュラム構成とした。
29	1)何事も目的意識を持って取り組むこと 2)目的をトコトン追求してモチベーションまでつなぐこと 3)思ったことは積極的に声に出すことと同じだけ相手の話を聞くこと を常に意識するように、初日に伝えました。その上で、当部での一般的な業務を通じて学んだことを毎日振り返ってもらうよう声をかけていました。
30	受け入れ部門の業務の中で、学生のスキルに見合ったレベルのものを選択し、その業務の担当者を指導員としてアサインした。その他、業務環境の整備、業務遂行上の基本スキル(調査の方法、プロトタイプのソースコード)の指導は必要に応じて受け入れ部門の専門担当者が実施した。学生の成果の(プロジェクト内での)意義や位置づけについて説明し、インターンシップでの達成感を感じてもらったようにした。

31	開発中パッケージの周辺プログラムについて、設計～開発～テストの一連の工程を経験してもらいました。対象パッケージのプロジェクトリーダーを指導員としてアサインし、終了報告の資料レビュー、発表練習は部長を含むチームメンバーでコメントをフィードバックしました。
32	若手社員が専任インストラクターとして指導を実施。セキュリティ分野への興味があったため、その点に関連した業務内容の実施とSE業務の経験を得てもらうように依頼。
33	機械学習用ソフトウェアライブラリ(オープンソース)の調査をテーマとして実施。指導員として主に2名に担当してもらい、調査の進め方(難しい課題があった場合の対処など)や、報告内容のレビューを実施。また、内部発表会を企画し、それに向けた発表練習および本番で今後に向けた改善点をアドバイス。
34	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当製品に関する基礎知識の習得 製品資料と構築手順書を用いた構築作業を通じ、製品に対する知識を深める。 ■ 担当機能に関する設計作業 担当機能について仕様の検討を行い、設計書を作成する。 ■ 担当機能に関する開発作業 担当機能の開発作業(コーディングおよびテスト)を行う。
35	中堅社員レベルの教育資料の一部を抜粋し、組織として成果を出すために何が問題なのか考えるようにアドバイスしました。また、あるべき姿と現状のギャップを意識するために何に注意すればいいか指導しました。
36	製品開発の一部機能のプロトタイプ開発をプロセス通りに進めることで、企業の開発スタイルを学んでいただくことを狙いとしていました。
37	<p>某金融会社様向け営業支援システムの変更案件・保守作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 変更案件: スケジュール訪問種別の追加対応 ② 研修ツール画面作成 ③ 変更案件対応で発生した不良の横展開 ④ 維持保守: ローンシミュレーション引数エラー不良対応
38	花形的な存在である「先進安全システム」の制御ソフトを、これも最近のトレンドであるSIMULINKモデルで開発する一連のプロセスを経験してもらった。かなり興味を持って取り組んで頂けたと思う。指導員には入社4年目の若手をアサイン。年齢が近い為、質問し易かったと思うし、入社後の自分が、かなり具体的なイメージとして掴めたのではないかと思います。